

可見元代石刻拓影目録稿・五続（從至治至至順）

可見元代石刻拓影目録稿・五続（從至治至至順）

森田 憲司*

Kenji MORITA

「可見元代石刻拓影目録稿」の5回目として、元朝中後半期、英宗の至治元年から至順までの分を掲載させていただく。なお、至順4年10月に順帝が即位し、元統に改元されているが、ここではこの年の末までを対象とした。『北京図書館蔵中国歴代石刻拓本匯編』では、元朝3巻のうち、2冊目第49巻の後半にあたる。英宗から順帝の即位直後までだから、元朝政權が最も混乱した時期であり、このことは目録中の年代表記にも反映している。「同時代」史料である石刻は、こうした時期にこそ有効性が増すと考えるが、いかがであろうか。

さて、この目録は、現時点で日本国内において、図録類やWEB上の画像などによって拓影を見ることができる元朝石刻についての目録であり、その作成の趣旨については、第1回目（本誌17号掲載）の冒頭に書いた「この目録について」を参照していただきたい。

その一方で、この作業をスタートして以後、新たに入手可能となったり、目にするのできるようになった石刻関係書は少なくない。これまでは「継続性の維持」という方針から、これらの文献を採録対象に追加せずにきたが、文献の数が増加し、しかも地域単位の刊行物が多く、所収の資料の中に他の文献には見えないものが少なくないことを考え、あえて増入することとしたことは、前回に書いた。事情は今回も変わらない。たしかに「継続性」という点から考えれば問題はあのだが、この作業がまだ長期にわたるであろうことを考え、あえて踏みきったもので、この点は今後も変わらない。

それとともに、前回の目録から編集の方式に若干の修正をおこなった。前回掲載した内容を語句の補正を加えて再掲する。また、「凡例」のうち変更・増補のある箇条の文末に、★を付した。

対象書目の増加のほかに、改めた点は次のとおり。

1つは、「題名・題刻」の問題。

曲阜の孔廟にある「参謁刻石」のようなものもあるが、多くは野外、とくに「摩崖」の形で刻されていることが少なくない。最近この種のものについての資料集の出版が増えてきているが、この目録でも収録対象として本腰を入れることとした。刻者の名前を中心とした短いものがほとんどで、史料として見れば、「使える」余地は少ないものではあるが、石刻であることに違いない。また、題刻の資料集の多くが写真であり、「拓影」でないことも問題と言えなくはないが、明瞭

に読み取れるものであれば、採録することとする。むしろ、年代の確定、すなわち干支のみのものの比定や後刻・偽刻の検討が課題として残り、さらには自身でタイトルを持たないものが大部分ゆえに、命名の方式に考えるべきものがあると思う。現時点では人名と必要な場合に小地名を付しているが、これでいいのかは、今後も考えていきたい。

なお、写真に関しては、明瞭に読み取れる写真を採録の対象とすることは、題刻以外でも同じである。ただし、あまりに不鮮明なものや、「三晋石刻大全」のように部分写真のみで、全体が読める写真が掲載されていないもの、今回採録している「張留孫墓碑」のような巨碑で、個々の文字までは読み取れない写真を掲載する文献などは、この目録の対象とはしていない。ちなみに、最近では石刻の上に拓本を乗せた写真を掲載する資料集もある。

2つ目には、これまでも繰り返し述べてきた石刻の命名の問題。これには検討すべき点が多い。筆者の考えを、旧稿にもとづいて再説する。

第一に、新たに命名するのか、原石にあるタイトルをそのまま取るのかが問題となる。これについては、一長一短があり、後者はたしかに厳密ではあるが、その一方でしばしば長文であって、一見しただけではその石刻の内容を把握しにくく、実務性に劣る。「菁華」においては、以前は、目録での表示は簡潔な名称を命名し(拓片題名)、データとして原石にある表記を注記していた(根拠題名)。しかも、検索では、「根拠題名」中の語からも当該の石刻が表示されるという方式をとっていて、以前に本稿においても、合理的な方法ではないかと紹介した。しかし、現在では「其他題名」という項目に代わってしまい、新収の石刻については、それも入力されていない。煩瑣なるがゆえであろうか。一方、国内の公刊された拓本目録で一番整っている『東洋文庫所蔵中国石刻拓本目録』の場合、凡例の標題の項に「本文頭題もしくは碑額題を標出した」とあり、さらに「文頭原題」の項を設けている。これも穏当な方式ではある。ただし、標題として何を用いたのかについて、個々の項目で注記されていない。おそらくは、頭題(ここで言う「首題」)を標題に使用した場合はあらためて何も注記しないということなのだろうが、その旨の記述は見当たらない。

命名の方式については、今後とも検討していきたいと考えているが、もし、新たに命名するとすれば、そのための原則を作る必要があり、さらにその前提となる石刻の種別とその呼称については、石刻学の最も基本的な項目であるにもかかわらず、清朝石刻学以来、論者ごとにすべて異なっていると言っていいほどだから、それはそれで一朝一夕にできることではない。

聖旨・詔勅などの命令文に関しては、石刻自体には特段の名前を付されていないことが多く、せいぜい「聖旨」などの語が額に刻されている程度である。したがって、どのように命名するかについての原則を考える必要がある。蔡美彪氏の『八思巴字碑刻文物集釈』が公刊されたのを機会に、表記の原則の再検討をおこない、対象、年次(複数刻の場合は略)をタイトルに入れるようにしてみたのだが、まだすっきりとしない。なお、1つの石に複数の命令文が刻されている場合、資料集によっては、それぞれの日付の箇所に着録するものもあるが、この目録は石刻拓影についての目録なので、可能な限り石単位にするようにした。ただし、典拠となった資料集の編集方式の関係で徹底できていないものもある。そのほか、漢字以外の文字が併刻されている場合など、命令文石刻に独特の問題があるが、それらについては、なるべく注記で記述することとした。

なお、大徳11年の孔子加封の聖旨を刻した石刻の問題が、今回でもなお存在する。この聖旨を刻した石刻が多数現存することはよく知られているが、これの取り扱いについては、次のような方針とした。まず碑名については、各碑に篆額などがある場合はそれに従い（「加封聖旨」とか単なる「聖旨」のばあいを除く）、とくに無い場合は「加封孔子聖旨碑」で統一する。次に年代については、もし題記や題名の部分に日付がある場合は、その箇所に配列し、とくに無い場合には11年7月に配列した。従って、この聖旨の石刻が一箇所に集まる形にはなっておらず、かなり後の時期までこの碑の項目が散在することとなる。また、新たに収録対象にした文献にこの聖旨のみの石刻があった場合、将来の増補まで著録できないこともありうる。

ところで、今回収録したのが180件余。12年間のものであるから、以前に比して拓影が現存する石刻の増加していることに変わりはない。理由の1つには「菁華」はもとより、新しく対象に加えた文献に「新資料」が多く登載されていることがあるだろうが、経験的には元朝後半になるほど、残存する石刻は増えていくことも理由となろう。

これまでの5回を通算して、800件強となった、元朝はあと35年だが、年代未詳のものや、今後新しく紹介されるものを考えれば、やっと6割を超えたというのが実感である。このペースでは、この目録の完成にまだ5年ほどはかかりそうだ。基本データは入力済みとはいっても不十分な点が多いので再確認が必要な上に、新収文献を追補しないとイケない。さらに、報刊所載の新出石刻については、『中国考古学年鑑』所載のものを中心に、雑誌などから資料収集をおこないつつあるが、まだ十分とはいえない。また、新地誌の問題もある。いずれにせよ、前回も述べたように、全体の公開の方策について検討をおこなわなければならない段階にきていると感じている。しかし、まだ作業がととのわない。過去に公表した部分についての補正、とくに新史料の追加を個人のデータとしてはおこなっているもので、その部分だけでも公開を急ぎたい。

目録凡例

以下、目録の各項目ごとに凡例を掲げる。なお、石刻の配列順は、日まで比定できるもの、旬まで、月まで、年まで、の順とする。また、上述のように前回は補訂した箇条には★を付した。

名称

次の順序で採用する。首題、額、掲載文献の命名、森田の命名

同じく原石にあるタイトルとして、首題と額があるが、首題を額よりも優先するのは、額の無い石刻の方が多い上に、額そのものやその拓本が失われたり、取り違えられたりすることがままあるためである。

墓碑、墓誌などのように個人にかかわる石刻の場合は、諱を（ ）に入れて付記する。

聖旨などの命令文については、対象、年次（複数刻の場合は略）をタイトルに加え、「元氏県開化寺虎児年聖旨碑」のように表記する。石刻の額や首題が、たんに「聖旨」などでなく、具体的な内容を有する場合はそれを用いる。★

摩崖については、人物名を主とし、必要に応じて小地名を付す。★

名称根拠

名称の欄に記した石刻の名称の根拠となったものを表示する。掲載文献の命名によった場合はその略称を用いた。「森田」は、この目録のために森田の命名したものである。

日付

日付の決定と表示の原則は、次のとおりとした。

文中にある一番新しい日付を取ることを原則とする（追刻は除く）。墓誌、墓碑の類については、被葬者の没年に配列するという考え方もあるが、石刻の成立と時間差がある場合もあり、その方式は取らない。

命令文などを刻したもので、立石の日付が不明確な場合は、文書の日付とし、複数刻されている場合は、最新のものを採り、各命令文の年次を注記に掲げる。また、命令文などに見られる十二支のみの表記については、判断の根拠を注記に記す。★

干支による表記は年に換算し、月日についても、干支表記は数字に直す。ただし、憲宗以前の干支表記のものは干支を併記する。

月、日の別称のうち、確定できるもの（孟春、仲夏、望日、既望、重午、重陽など）は、数字に換算して表記する。ただし、問題の残るものについては、注記欄に原表記を掲載する。

年によって動くもの（二十四節気など）は、それを表示する。

たんなる重刻（たとえば、元碑を明の萬暦年間に再刻したもの）については、その石刻の時期に配列し、※をつけるとともに、注記に重刻の日付を入れる。過去の朝代の石刻を元朝時代になって重刻したものについては、重刻された時期に配列し、その旨を注記する。

日付根拠

上記の年代比定の根拠となったものを記す。「立石」、「建」、「記」、「附」、「葬」など、石刻中で用いられている表現をそのまま用いることを原則とした。「日付」は石刻末に日付のみあるもの、「文書」は刻された文書の日付に拠ったもの、「文中」は、文中にある表現から比定したもの、拓影掲載文献の年代比定に拠った場合は、その略称を記した。

所在地

原則として拓影掲載文献の表記に従い、省名（北京・上海を含む）と2字表記の県名（北京などは区名）で掲載する。この場合、現在の市名もふくんで新旧の地名が混在することはやむをえないものとする。また、石刻の移動については配慮しないこととする。一部、石刻の集中する史蹟の名を付している。

所載

複数の文献に所載の場合は、採録文献の対象範囲の広い文献から並べる。「菁華」と「東洋」については、最後とする。また、「北図」にあるものについては、「菁華」は略した。これまでの経験では、北図にあるものはかならず収録されているからである。

文献名については略号を使用し、文献と略号の一覧はこの文末に掲載した。

注記

石刻の内容が数載にわたる場合、碑陰、碑側にも内容がある場合などは、ここに注記する。★
いずれの面が碑陽、碑陰なのか判別しがたい事例もあるが、引用文献に従う。★
「法帖」と注記したものは、内容よりも筆跡を鑑賞するために刻された石刻と見做されるものである。ただし、これは森田の主観的判断によるものである。★

その他

文字は常用漢字を用いることとする。

拓影出典目録

※使用した略称のあいうえお順とし、数字の種類を注記した。今回収録すべき石刻のなかった文献については＊を、今回から採録した文献には※を、それぞれ付している。

- 安陽 安陽県古碑刻集萃 安陽県老幹部局他 2004 頁 ＊
于右任 西北民族大学図書館于右任旧蔵金石拓片精選 上海古籍出版社 2008 ＊
図版番号
蔚県 蔚県碑銘輯録 広西師範大学出版社 2009 図版番号 ※
河間 河間金石遺録 河北教育出版社 2008 頁 ※
華山 華山碑石 三秦出版社（陝西金石文献匯集） 1995 図版番号
漢中 漢中碑石 三秦出版社（陝西金石文献匯集） 1996 図版頁
翰墨 翰墨石影 河南省文史研究館蔵搨片精選 広陵書社 2003 冊・頁
咸陽碑刻 咸陽碑刻 三秦出版社（陝西金石文献匯集） 2003 図版番号
咸陽碑石 咸陽碑石 三秦出版社（陝西金石文献匯集） 1990 頁 ＊
沂山 沂山石刻 山東友誼出版社 2009 頁 ※
衢州 衢州墓志碑刻集録 浙江人民美術出版社 2006 頁
戸県 戸県碑刻 三秦出版社（陝西金石文献匯集） 2005 図版頁
固原 固原歴代碑刻選編 寧夏人民 2010 石刻番号 ＊
濟寧墓誌 濟寧歴代墓誌銘 齊魯書社 2011 頁 ※
拓影は巻頭の写真のみ（元は1）
蔡11 八思巴字碑刻文物集釈 中国社会科学出版社 2011 連番
拓本の所蔵者や典拠が記されているものについては、それを注記した
三晋孟県 三晋石刻大全陽泉市孟県巻 2010 頁 ＊
三晋堯都 三晋石刻大全臨汾市堯都区巻 三晋出版社 2011 頁 ※
三晋洪洞 三晋石刻大全臨汾市洪洞県巻 三晋出版社 2009 頁 ＊

- 三晋高平 三晋石刻大全晋城市高平市卷 三晋出版社 2010 頁 ※
三晋靈丘 三晋石刻大全大同市靈丘県卷 三晋出版社 2010 頁 ※
山西 山西碑碣 山西人民出版社 1997 頁
山東臨朐 山東道教碑刻集 臨朐卷 齊魯書社 2011 頁 ※
輯繩 洛陽出土歷代墓誌輯繩 中国社会科学出版社 1991 頁 *
寿陽 寿陽碑碣 山西古籍出版社 2007 頁
三晋石刻大全の寿陽卷は、元については同内容
紹興 紹興図書館館藏地方碑拓選 西冷印社出版社 2007 頁 *
常熟 常熟碑刻集 上海辞書出版社 2007 *
- 拓影は巻頭グラビアのみ（頁なし）
- 新出 新中国出土墓誌 図版番号
「新出陝西2」のように巻名を表示した
- 図志 北京元代史蹟図志 北京燕山出版社 2009年 頁
西南 中国西南地区歴代石刻匯編 天津古籍出版社 1998 冊・頁
西北 中国西北地区歴代石刻匯編 天津古籍出版社 2000 冊・頁
西北民族 西北民族碑文 甘肅人民出版社 2001 *
- 録文は多いが（転載を含む）、拓影は巻頭グラビアのみ（頁なし、元は2件）
- 精粹 北京文物精粹大系・石刻卷 北京出版社 2004 図版番号
陝西 陝西碑石精華 三秦出版社 2006 図版番号
泰山 泰山石刻大全 齊魯書社 1993 冊・頁 *
涿州 涿州貞石録 北京燕山出版社 2005 頁
澄城 澄城碑石 三秦出版社（陝西金石文献匯集） 2000 頁 *
長治 長治金石萃編 山西春秋電子音像出版社 2006 頁 *
重陽 重陽宮道教碑石 三秦出版社（陝西金石文献匯集） 1998 図版頁 *
天一 天一閣 明州碑林集録 上海古籍 2008 *
- 拓影は巻頭グラビアのみ（頁なし）
- 東洋 東洋文庫所蔵中国石刻拓本目録 東洋文庫 2002 連番
図版が掲載されているわけではないが、国内で閲覧可能を掲載のため収録する
- 道家 道家金石略 文物出版社 1988 頁 *
南京 南京歴代碑刻集成 上海書画出版社 2011 図版番号 ※
寧夏 寧夏歴代碑刻集 寧夏人民 2007 頁 *
寧波 寧波歴代碑碣墓誌彙編 上海古籍出版社 2012 頁 ※
白話 元代白話碑集録 科学出版社 1955 図版番号 *
柏郷 河北柏郷金石録 文物出版社 2006 頁
碑帖拓本 中国古代碑帖拓本 香港中文大学文物館 2001 図版番号
碑林 西安碑林全集 広東經濟出版社 1999 冊・頁
武夷 武夷山摩崖石刻 大衆出版社 2007 頁

- 菩提 菩提達磨嵩山史蹟大観 三宝書院 1981再版 頁 *
- 法源 法源寺貞石図録 五洲伝播出版社 2006 頁
- 北京文研 北京市文物研究所蔵墓誌拓片 北京燕山出版社 2003 頁
- 北京摩崖 北京地区摩崖石刻 学苑出版社 2010 頁 *
- 北図 北京図書館蔵中国歴代石刻拓本匯編 中州古籍出版社 1989-91 冊・頁
ただし今回の対象となるのは第49冊のみ
- 名碑 洛陽名碑集釈 朝華出版社 2003 頁
- 羅蔡 八思巴字与元代漢語（増訂版） 中国社会科学出版社 2004 図版番号
掲載の拓影は北京大学図書館所蔵のもの（補を除く）
- 楼観 楼観台道教碑石 三秦出版社（陝西金石文獻匯集） 1998 図版頁 *

拓影画像データベース

人文 京都大学人文科学研究所所蔵石刻拓本資料

<http://kanji.zinbun.kyoto-u.ac.jp/db-machine/imgsrv/takuhon/>

京都大学人文科学研究所附属漢字情報センターが提供する画像データベース。きわめて鮮明な大型画像を見ることができる。このデータベースの公開が石刻研究を大きく進展させたことは、これまでも紹介してきた。付されている番号を表示したが、各番号の頭にある「GEN」は略した。

菁華 碑帖菁華

中国国家図書館所蔵の拓本画像データベース。国家図書館の検索サイトの中の「図片專欄」にある。収録対象とする期間について、年代検索をおこなって、対象資料を採録した（2012年8月中旬に確認）。ただし、総目的なものが見出せないで、完全にチェックできているかどうかは不明である。なお、今回の目録の対象範囲では、「北図」に載せられていて「菁華」にないものはないので、煩を避けるため、「菁華」の注記は略した。画像については、大小精粗にはばらつきがあり、内容判読が可能なだけの解像度がないものも含まれるが、新収録のものについては画質もよく（カラー画像のものもある）、利用価値が高い。ただし、画面構成上に難があり、すべての拓影が利用しやすいわけではない。また、年代比定などに関しては、「北図」そのままでなく修正が加えられていることもあるが、すべてが正しいわけではない。アドレスは変更されることがあるようなので、省略する。

追記

最近多く出版される地域レベルでの石刻書のうち、最も注目すべきは「三晋石刻大全」であろう。現代のものにまで及ぶその収録範囲の広さ、これまで知られていなかったローカルな石刻を紹介していることなど、石刻研究の材料として魅力的なシリーズである。最近国内で目撃できるようになり、今回から掲載の対象とした「臨汾市堯都区卷」を例にとると、元代の石刻13件が収録されているが、いずれもこれまで管見の及ばなかったものである。しかし、その一方で、この

シリーズを本稿のテーマである「拓影」という視点から見ると、全景は写真にとどめ、拓影については部分しか掲載していない巻もままある。写真から文字を読むことができる石刻については掲載の対象としたが、文字を読み取ることのできない全景写真、部分拓影、録文の組み合わせの場合には、採録しないこととした。したがって、全冊対象外となる巻や、同じ巻でありながら採録と不採録が混在することとなった。たとえば、「運城市塩湖区巻」には今回対象とした年代の石刻2つが掲載されているが、いずれも、文字の読み取りが困難なため採録しなかった。しかし、他の石刻の多くには拓影が掲載されているので、データを入力済みである。上で触れた摩崖題記の資料集のように、写真での掲載が中心のものについては、今後同様の事例が増えると思われる。

付記

この目録は、平成23年度の奈良大学研究助成「元朝中期石刻をめぐる諸問題の解明」および、平成23年度～25年度科学研究費基盤研究B「河南・山西地区の多民族融合社会史の研究－石刻史料による中国地域社会史解明の試み」（研究代表者村岡倫龍谷大学教授）の分担研究者としての成果の一部である。さらには、過去の科学研究費や奈良大学研究助成などの助成金による文献の集積、あるいは現地調査・国内文献調査の成果が基礎となっている。

名称	名称 根拠	年代	年代 根拠	省	県	所載	注記
建康路三茅山崇禧万寿宮記	首題	至治元年正月15日	建	江蘇	句容	北図49・084	
韓有隣題名	森田	至治元年5月1日	文中	陝西	岐山	青華	
普濟大師塔銘	三晋 靈丘	至治元年6月12日	立石	山西	靈丘	三晋靈丘30	前半欠落
褚公祠堂記	首題	至治元年7月4日	録	湖南	湘潭	青華	唐碑の重刻
魏村牛王廟戲台石柱題刻	三晋 堯都	至治元年7月9日	堅	山西	臨汾	三晋堯都49	
紹興路学修大成殿記	首題	至治元年7月上浣	記	浙江	紹興	北図49・085	
平江路重修儒学記	首題	至治元年7月13日	立	江蘇	蘇州	人文122X、北図49・086、東洋2325	
雲峰觀碑	北図	至治元年10月	北図	山東	滕県	北図49・087	不鮮明
蔚州楊氏先塋碑銘	首題	至治元年11月27日	立石	河北	蔚県	北図49・088(陽)、蔚県190(陽、陰)	碑陰：譜系
大元勅賜重修塩池神廟碑記	人文	至治元年12月12日	日付	山西	運城 塩池廟	人文123A(陽上半)、B(陽下半)、C(陰上半)、D(陰下半)	
重建唐中堂褚公祠堂記	首題	至治元年	文中	湖南	湘潭	青華	
大瀛海道院記	篆額	至治2年2月19日	下欠	浙江	象山	寧波354	拓影では一月に見える、万暦34年の重刻もあり
元遺山詩	青華	至治2年2月2日	書	不明		青華	
大元加贈真大道道教始祖劉真君之碑	首題	至治2年2月	文書	北京	房山区	青華	碑陰：題名
涇県尹承務蘇公(済)政績記	首題	至治2年2月	記	安徽	涇県	北図49・089	
聖禪寺重建山門捨財題名碑	北図	至治2年4月	造?	江蘇	無錫	北図49・090	横題：重建山門捨財檀越
保定路易州涑水県石厓山遽化寺西□□ 渠考魏村魏公百戸唯心居士創建弥陀三師 堂殿□□之碑	首題	至治2年5月	立石	河北	涑水	北図49・091	
重修大成廟記	首題	至治2年6月	日付	山東	掖県	北図49・092	

福建塩課提拳□彦弼墓誌	森田	至治2年8月8日	誌	不明	青華	青華	碑側に日付
仏説般若波羅蜜多心經	青華	至治2年8月14日	青華	雲南	不明	青華	碑陰：題名
東鎮沂山元德東安王廟神佑宮記	首題	至治2年9月18日	記	山東	臨朐	山東臨朐8、沂山32	首題：秦定州勸請疏
請容公長老住持靈巖疏碑	北図	至治2年10月	文書	山東	長清	北図49・093	上旬旦日
添公副寺之塔	本文	至治2年11月1日	立石	山東	長清 靈巖寺	人文124X、125X	
僊人万寿宮重建記	首題	至治2年11月15日	立石	山東	鄒県	人文127X	
崇德真人(李志椿)之記	首題	至治2年11月15日	立石	山東	鄒県	人文128X、北図49・094	人文は12月とするが11月ではないか
明德真人(史志道)道行之碑	首題	至治2年11月15日	立石	山東	鄒県	人文126X	
方日起墓誌蓋	森田	至治2年11月27日	葬	江蘇	溧水	南京42	南京には本体拓影の掲載がないため、移録の誌文による
正宗弘法大師大名僧録慶公(慧●)功行之碑	首題	至治2年11月	立石	河南	登封 少林寺	碑帖拓本124	
善公山主寿塔	全文	至治3年正月15日	立石	山東	長清	人文129X、130X、青華	人文130は上部欠
趙良弼興学詩刻	北図	至治3年閏5月15日	書	河北	贊皇	北図49・095	
石氏先塋之銘	篆額	至治3年8月10日	立	山西	寿陽	寿陽95	
仏説般若波羅蜜多心經	森田	至治3年11月1日	記	雲南	麗江	青華	父楊隆正追善、碑陰梵文
大安山瑞雲禪寺第十二代信公禪師塔記	首題	至治3年	立石	北京	房山区	青華	
都総金局使廬公墓石	森田	至治3年	立石	北京	東城区	図志211	本文：大元都総金局使廬公之墓、1989年7月東城区建国門觀象台東外牆基下出土
無錫州官題名之記	篆額	泰定元年1月15日	青華	江蘇	無錫	青華	不鮮明
聖聖克国公五十三代孫監修提額(下欠)	本文	泰定元年2月4日	下欠	山東	曲阜 顔林	人文131X	
梧桐村葫蘆頭重建仏禪侯廟碑	三晋 靈石	泰定元年2月22日	立石	山西	靈石	三晋靈石12	
大元敬中泰大夫浙東道宣慰使都元帥荅里麻世礼公墓志銘并序	首題	泰定元年2月28日	葬	陝西	西安	北図49・097、西北08・008	

康氏先塋碣銘	首題	泰定元年2月28日	立石	北京	房山区	北図49・098	人文の注記の文字化けのため所在地不明 残欠、残字と地方志の記事から沂山がこれに比定 至元6年の碑が大徳7年の地震で倒れたため重建 西四雙関帝廟
皇帝登宝位祀北嶽記	首題	泰定元年2月	下欠	河北	曲陽	北図49・099	
張養浩詩刻	北図	泰定元年3月7日	書	不明		北図49・100	
邱公墓碑	人文	泰定元年3月	下欠	不明		人文132X	
代記記残	森田	泰定元年3月	沂山	山東	臨朐	沂山273	
大元勅賜重建堯帝廟碑銘并序	首題	泰定元年4月	重建	山西	臨汾	三晋堯都50	
周天大醴投龍簡記	首題	泰定元年5月	立	河南	濟源 濟澆廟	翰墨6・69	
大元贈勅封齊天護国大將軍檢校尚書守管 淮西節度使兼山東河北西□□鎮都招討使 提調□天下諸神衆無地分巡□官中書門下 平章政事開府儀同三司金紫光祿大夫駕前 都統軍無佞侯壯□義勇武安英濟王崇寧護 国真君碑	首題	泰定元年5月	立石	北京	西城区	北図49・101	
趙郡賈氏(庭瑞)先塋碑	首題	泰定元年8月	立	河北	柏郷	柏郷89	
大元国懷慶路修武縣王褚村辛店士林富仁 屯馬家潤等重修二仙廟記	首題	泰定元年11月	立石	河南	修武	翰墨6・70	
大元銀青綠榮祿大夫功臣太保上柱国薊国 公諡忠愍石宋公(蕭拜住)神道碑銘	精粹	泰定元年	精粹	北京	懷柔	精粹136	碑文不存、蟬首と亀趺のみ
孔治墓碑	北図	至治4年後	北図	山東	曲阜	北図49・096	孔治は大徳11年卒
聚公院主寿塔	本文	泰定2年後正月20日	立石	山東	長清 靈巖寺	人文133X、菁華	人文は3年とするが、 あり、2年に閏正月あり
張氏宗祖之図	横題	泰定2年閏正月	日付	河北	曲陽	菁華	碑陰：題名
皇后台衆都親建石碣銘記	首題	泰定2年2月2日	立	北京	房山区	北図49・102(陽)、103(陰)	
朱主親建文館記	首題	泰定2年2月上澣	記	山西	高平	三晋高平71	
濟瀆神廟之記	篆額	泰定2年3月上旬	立石	河北	曲陽	北図49・104	

故昭文館大学士榮祿大夫司徒弘性田覚大 師領東山宗事松溪和公長老大和尚(顯和) 碑銘并序	首題	泰定2年3月	立石	北京	房山区	青華	
太華山仏巖寺常住田地碑記	首題	泰定2年4月上浣	立石	雲南	昆明	北図49・105、西南14・26	
全寧路新建儒学記	首題	泰定2年6月2日	東洋	熱河	赤峰	青華、東洋2326	不鮮明
大崇聖寺碑銘並序	首題	泰定2年6月13日	立石	雲南	大理	北図49・012(陰)、106(額付 き)、西南15・32(額)、33(本 文)、34(陰)、大理1・65 (額)、66(本文)、67(陰)	碑陰：猪兒年(至大4年)閏7月5日聖旨、 皇帝名は曲律皇帝まで
仏頂尊勝宝塔記	首題	泰定2年4月	書	雲南	昆明	西南15・31、大理1・64、青華	仏像の光背、碑陰は梵文
太華山観建朝元洞之碑	首題	泰定2年10月15日	立石	陝西	華陰 華山	北図49・107、西北08・009、華 山37	
百戸魯公墓石	森田	泰定2年□月7日	刊	北京	房山区	図志76	碑陰：略伝、本文：大元牒奉勅可追封忠 翊公校尉前衛親軍屯田百戸魯公之墳
妙高台詩刻	青華	泰定2年	日付	広東	南海	青華	下欠、末欠
大元帝師法旨之碑	額	泰定3年正月	立石	河南	濬県	北図49・108、蔡11・15(北京 大学、北京図書館)	上：パクパ、下：漢字
南鎮廟置田記	篆額	泰定3年正月	記	浙江	紹興	北図49・109	
李良傑等題名	森田	泰定3年正月	文中	福建	武夷	武夷48	
趙鼎新、周剛善等九人劉仙巖題記	西南	泰定3年2月12日	西文中	広西	桂林	西南11・5	泰定丙寅花朝、花朝は2月12日
皇元放宣武將軍新添葛蛮軍民安撫使司達 魯花赤珊竹公神道碑銘并序	首題	泰定3年2月	立石	河南	新安	北図49・111、翰墨6・71、名碑 74	
重修段干木先生祠堂記	首題	泰定3年3月4日	立石	山西	永濟	山西283	
融州平徭記	横題	泰定3年3月	題額	広西	融水	西南5・63、青華	
寿公禪師捨財重建般若殿記	首題	泰定3年3月	記	山東	長清 靈巖寺	人文134X、北図49・113	
漢義勇武安王祠記	額題	泰定3年4月20日	書	北京	西城区	北図49・114	西四雙閣帝廟
大元放安西路耀州尹耶律君(世昌)墓誌銘	首題	泰定3年6月1日	附葬 夫人	陝西	西安 碑林	碑林095・4789、新出陝西2・ 347	蓋あり

創建玄逸觀碑	篆額	泰定3年6月9日	立石	山西	芮城	山西286	碑陰：回文、蘭州は八月十三日とする
楊敬德于欽同登太白樓詩2	人文	泰定3年6月11日	日付	山東	濟寧	人文135X	
有元重修文殊寺碑銘	首題	泰定3年8月上旬	立石	甘肅	肅南	蘭州62	正徳8年の書き込み有
(上欠)玉清万寿宮記	首題	泰定3年8月	立石	山東	臨沂	北図49・115	
□□□□水碾磨記	首題	泰定3年	立石	河北	井陘	青華	本文：大元祖父薛資封承務郎妻卜氏封恭人之懿、1989年7月東城区建国門觀象台東外牆基下出土
王□南等謁孟子廟記	人文	泰定3年12月1日	題	山東	鄒縣 孟廟	人文136X	
泰定三年石匠題記	森田	泰定3年	文中	北京	房山区	北京摩崖40、青華	本文：大元祖父薛資封承務郎妻卜氏封恭人之懿、1989年7月東城区建国門觀象台東外牆基下出土
皇姊大長公主降香碑	首題	泰定4年3月	建	山東	曲阜	北図49・116	
石人	森田	泰定4年4月15日	日付	北京	門頭 溝区	図志326	本文：大元祖父薛資封承務郎妻卜氏封恭人之懿、1989年7月東城区建国門觀象台東外牆基下出土
承務郎薛資妻恭人卜氏墓石	森田	泰定4年4月	立石	北京	東城区	図志215	
重修城隍土地廟記	首題	泰定4年5月1日	立石	河北	涿州	青華	写真不鮮明のため、録文による、横長長方形
曹用等題名	青華	泰定4年6月22日	文中	浙江	青田	青華	
林升等題名	青華	泰定4年7月10日	文中	浙江	青田	青華	兎兎年十一月二十五日、皇帝名は曲律皇帝まで
大元故中書左丞開府儀同三司上柱国贈推忠宣力保德功臣太傅益惠愷質秦国王(勝)墓誌銘	首題	泰定4年10月	葬	陝西	戸県	戸県53p、54p(蓋)	
万寿宮聖旨碑	北図	泰定4年11月25日	文書	山東	掖県	北図49・117	兎兎年十一月二十五日、皇帝名は曲律皇帝まで
陳実公題刻	武夷	泰定4年	武夷	福建	武夷	武夷39	
何約等靈巖寺題詩	森田	泰定5年正月下旬	日付	山東	長清 靈巖寺	北図49・118	兎兎年十一月二十五日、皇帝名は曲律皇帝まで
給孟氏佃戸公憑碑	森田	泰定5年正月	日付	山東	鄒県	人文137X	
焦公(焦埕)墓誌	横題	泰定5年2月15日	立石	北京	房山	新出北京73、図志155、青華	

耆老襲慶居士王公墓石	森田	泰定5年2月	立石	北京	東城区	図志209	本文：大元耆老襲慶居士王公之墓、1989年7月東城区建国門觀象台東外牆基下出土 塋誌とすべきもの、上半分は読めない、泰定五は三の可能性あり、日付の後も不鮮明 「是月二十八日礼成」とあり 西城区西四元代排水渠壁面
元故中順大夫浙東宣慰副使任公(仁発)墓誌	新出天津	泰定5年3月9日	葬?	上海	青浦区	新出天津29	
劉瓚等代祀東鎮諱碑	森田	致和元年3月	日付	山東	臨朐	山東臨朐12、沂山36	
報国公祠堂記	首題	致和元年5月1日	立石	山東	鄒県	人文138X	
石匠劉三刻名	森田	致和元年5月	文中	北京	西城区	図説北京史226	
増修潮海寺碑記	首題	致和元年7月15日	立石	河北	河間	河間96	
孟子廟費田記	首題	致和元年7月15日	立石	山東	鄒県	人文139X	
塑像施主題名碑	北図	致和元年8月15日	誌	山東	長清 靈巖寺	北図49・119	
有元故潜齋先生許中和(衍)墓誌	蓋	致和元年9月23日	誌石	河南	焦作	新出河南1・152	
濰州北海県第十九都西木苗村功德維首田彬叔修牛王德勝將軍行宮廟記	首題	致和元年9月	下欠	山東	濰州	人文140X、青華、東洋2327	
故河南竹逸教諭(葉邦猷)壙誌	首題	天曆元年11月27日	志	浙江	衢州	衢州54	
保定路易州定興県重修孔子廟堂記	首題	天曆元年12月	記	河北	定興	青華	
大元故鞏県尹贈嘉議大夫礼部尚書輕車都尉追封滑河郡侯張公(恩)神道碑銘	首題	致和元年	立石	河南	鞏県	翰墨6・72、名碑75	
董文忠墓石	森田	致和以降	青華	河北	藁城	青華	
拳公提点勲績施財記	首題	天曆2年正月下旬	記	山東	長清 靈巖寺	人文142X、北図49・120	
和婆婆重修玄真觀功德記	人文	天曆2年3月上旬	立石	河北	武安	人文143X、北図49・121	
耿完者禿墓誌	森田	天曆2年4月19日	卒	北京	朝陽	北京文研73、図志205	
濟瀆池之記	首題	天曆2年5月	立	河南	洛源 濟瀆廟	翰墨7・01	

1990年5月朝陽区王四營郷南豆各庄北京第二監獄出土

全文：有元贈体仁保德佐運功臣太師開府儀同三司上柱国趙国正獻王公之墓、青華の年代は常山貞石志による？

額の拓影もあり

大元勅賜開府儀同三司上卿輔成養化保運 玄教大宗師志道弘教冲玄仁靖大真人知集 賢院事領諸路道教事張公(留孫)碑銘并序	首題	天曆2年5月	立石	北京	朝陽区 東嶽廟	人文144A(陽)、B(陰)、C (陰)、北図49・122(陽額)、 123(陽)、124(陰額)、125 (陰)	
涿郡歷代名賢碑并序	首題	天曆2年6月	建	河北	涿県	北図49・126、涿州36	写真不鮮明
文宣王世系図	菁華	天曆2年8月	不鮮明	山東	曲阜	菁華	
仏日円明海雲祐聖国師舍利宝塔	首題	天曆2年9月1日	立石	山西	大同	山西289	
曹超然李綱太白樓題詩	人文	天曆2年10月	日付	山東	濟寧	人文145X	
文帝御書「南山寺」及記	西南	天曆2年?	西南	広西	貴港	西南5・64	記文不鮮明、年代根拠不明
宣聖五十一代墓碑(孔元孝)	人文	天曆3年3月	立石	山東	曲阜 孔林	人文146X	
宣聖五十二代墓碑	人文	天曆3年3月	下欠	山東	曲阜 孔林	人文147X	
宣聖五十三代墓碑(孔浣)	人文	天曆3年3月	下欠	山東	曲阜 孔林	人文148X	
鄭大順墓誌	寧波	天曆3年4月3日	葬	浙江	鄞県	寧波357	
重修文憲王廟之記	篆額	天曆3年5月	人文	山東	曲阜 周公廟	人文149X	
大元故翰林侍講博士通奉大夫知制誥同脩 国史竝筵官曹公(元用)墓誌銘并序	首題	至順元年6月26日	葬	山東	濟寧	濟寧墓誌	
順州孔子廟神門記	篆額	至順元年6月	記	北京	順義	図志16	嘉靖の“創建響堂石欄干記”の碑側?
蕭処仁等題名	人文	至順元年7月	文中	河北	磁州	人文150X	
大元国大都路涿州房山県独樹里重建帝舜 廟碑	首題	至順元年9月4日	立石	北京	房山区	北図49・127	
勇公書記(桓勇)寿塔記	首題	至順元年重陽後三日	助縁	山東	長清 靈巖寺	北図49・128、129	四面
集慶孔子廟碑	首題	至順元年10月1日	立石	江蘇	江寧	北図49・130、南京43	
殿試張君(庭裔)墓	題	至順元年10月1日	立石	山東	曲阜	菁華	
真定□在城十方萬歲禪寺莊産碑	首題	至順元年10月(下欠)	欠	河北	正定	北図49・131	

靈巖寺執照	人文	至順元年12月	文書	山東	長清 靈巖寺	人文151X、152X	文書は延祐5年2月のもの
康公墓誌銘残石	人文	泰定7年（至順元年）	請告	北京	房山区	人文141X、菁華、東洋2328	
贈奉訓大夫張公墓石残	森田	至順2年2月	立石	北京	平谷	図志14	
都緑彌釋海涯等游記	西南	至順2年清明	文中	広西	桂林	西南5・65	
大靈巖禪寺泉公(思泉)首座勲績記	首題	至順2年6月上旬	記	山東	長清 靈巖寺	菁華(陰陽)	碑陰は延祐5年の加号符か題名の上に刻
易州龍興觀鵝兒年懿旨碑	森田	至順2年6月	建	河北	易州	蔡11・8(陽、陰)、東洋2330	碑陽：パクパ、碑陰：漢字、鵝兒年は至大2年
大元福寿興元觀記	篆額	至順2年7月	建	北京	西城区	図志187、法源85、精粹143	碑陰：題名、1969年西城区樺皮廠東城牆出土
大靈巖禪寺亨公(思亨)道行勲績壽塔記	首題	至順2年7月	記	山東	長清 靈巖寺	人文154A-D、155X(陽)、菁華	四面
加封孔子父母夫人四聖制碑	森田	至順2年9月	文書	広西	桂林	西南5・66、菁華	孔子父母、夫人、顔回、曾参、子思、孟子、程顥、程頤の加封聖旨を合刻(本紀では3年正月とする夫人も2年9月付)
加封孔子父母夫人制碑	森田	至順2年9月	文書	江蘇	江寧	北図49・132、南京45	夫人は2年6月とある
加封四聖制碑	北図	至順2年9月	文書	江蘇	江寧	北図49・134、南京44	顔回、曾参、子思、孟子
加封曾子子思制碑	北図	至順2年9月	文書	江蘇	句容	北図49・135	
加封顔子孟子制碑	北図	至順2年9月	文書	江蘇	句容	北図49・136	
加封孟子鄒国亜聖公制碑	森田	至順2年9月	文書	山東	鄒県	人文156X(上下)、157X(下)、158X(下)、羅蔡16(上下)	上：パクパ、下：漢字
加封兗国復聖公並追封兗国夫人制碑	森田	至順2年9月	文書	山東	曲阜 顔廟	人文159X(上下)、160A(上)、160B(下と額)、羅蔡17(上下)、東洋2331	上：パクパ、下：漢字
靈巖禪寺第三十四代慧公(智慧)禪師碑塔銘	首題	至順2年10月5日	立石	山東	長清 靈巖寺	人文153A(陽)、B(陰)、161X、北図49・137(陽)、138(陰)	
亦都護高昌王世勲碑	蘭州	至順2年10月上旬	立石	甘肅	武威	蘭州64	残碑、碑陰回文
御香碑記	首題	至順2年10月	立石	遼寧	北鎮	北図49・139(陽)、140(陰)、東洋2332	碑陰：題名

有元加封孔子大成誥	篆額	至順2年11月	建	河北	易県	北図49・141(陽)、142(陰)	碑陽は大徳加封制、碑陰：題名
武安王封号石刻	青華	至順2年	日付	河北	正定	青華	
「恭臺」二字	森田	至順2年以前	青華	山東	曲阜	青華	筆者郭貫は至順2年卒
張□妻墓碑殘石	北図	至順3年2月12日	卒	河南	孟県	北図49・143	
大元勅授星子県達魯花赤兼管本県諸魯勸農事王公(懿德)廣誌	森田	至順3年2月	誌	河北	涿州	新出河北1・167、涿州122	蓋：大元勅授星子県達魯花赤兼管本県諸軍與魯勸農事王公之臺、内容は廣誌の形式
嘉議大夫王公墓石	森田	至順3年2月	下欠	北京	東城区	図志210	1989年7月東城区建国門觀象台東外牆基下出土
唐石峰禪寺甘露義壇碑	首題	至順3年3月3日	重建	山西	交城	青華	原碑は元和8年
西行記	首題	至順3年清明後2日	文中	陝西	興平	咸陽碑刻76	
皇元保定路易州□山□福禪寺開山第一代法燈普照大禪師松庵嵩公(道嵩)道行碑銘并序	首題	至順3年3月	建	河北	易県	北図49・144	
僧師澄等題名	森田	至順3年4月	文中	広西	桂林	西南5・67	※ 夏孟とあり
東鎮代祀記殘	横題	至順3年5月	日付	山東	臨朐	山東臨朐13、沂山276	
重修宣聖廟題名記	首題	至順3年5月	記	山東	曲阜	青華	
登松嶺寺詩碣	北図	至順3年5月	記	山西	晋城	北図49・145	
至順三年吳氏買地券	森田	至順3年7月29日	日付	四川	合川	西南1・98	
追封耶律文正公(楚材)聖旨碑	翰墨	至順3年7月	文書	河南	輝県	翰墨6・73	
法輪禪院重修善法堂記	首題	至順3年7月	記	山西	晋城	北図49・146	
保定路滿城県抱陽山禱雨感応記并序	首題	至順3年9月23日	建?	河北	滿城	北図49・147	碑陰失拓
加封孔子父母夫人制碑	森田	至順3年6月	文書	江蘇	句容	北図49・133	
(慈雲)和尚敕建弥陀院碑	首題	至順3年10月	立石	山西	原平	山西292	
隱真巖建閣施捨題名	横題	至順3年	西南	広西	桂林	西南11・6	横題以外読めない

長明燈記	首題	至順4年正月15日	記	河南	洛陽 白馬寺	青華	丁巳(23日)は人文による
致嚴堂記	首題	至順4年2月23日	記	山東	鄒県 孟廟	人文162X	一方の詩は至元24年の日付
張処約靈巖詩二首	人文	至順4年2月	日付	山東	長清 雲巖寺	人文163X、青華	
大元放通奉大夫參和政事大興府尹贈正奉大夫河南江北等處行中書省參知政事義軍追封平陽郡公諡忠肅姚公(天福)神道碑并序	首題	元統元年3月13日	立石	山西	稷山	北図49・151(陽)、152(陰)、山西294(篆額、4面あり)、北図は碑側なし	
洛神賦并序	首題	至順4年閏3月29日	記	不明		北図49・148、149	法帖、趙孟頫書
重修宣聖廟記	首題	至順4年5月上旬	立石	河北	薊県	青華	
奉福寺円寂雲光長老住持德公靈塔	本文	至順4年5月	立石	北京	城内	新出北京74	20世紀70年代環線地鉄工地出土
漢校官碑积文	題額	至順4年5月	識	江蘇	溧水	南京46	
府学附地経界記	東洋	至順4年7月1日	立石	江蘇	蘇州	東洋2334	冒頭数行上半欠
新修平江路学記	首題	至順4年9月1日	製	江蘇	蘇州	東洋2335	
洛京白馬寺祖庭記	首題	至順4年9月15日	下欠	河南	洛陽 白馬寺	北図49・150、名碑76	
智鑒円融雄弁大師講経律論賜紅沙門迪公塔銘	首題	至順4年12月吉日	建	山西	高平	三晋高平77	
有元贈奉議大夫冀寧路中驍騎尉孝義県子殷府君(珍)碑	首題	元統元年	立石	山西	繁峙	山西304	戊午月、戊戌日
刀村福田院觀建正殿碑記	首題	至順4年庚申月甲午日	立石	山西	寿陽	寿陽96	碑陰：題名
大元同知徽政院事張公(住道)先德之碑	篆額	至順4年	青華	熱河	赤峰	東洋(陽、額)2333、青華	不鮮明、額は大元同知徽政院事住道先德之碑とする
加封孔子父母妻及顔曾思孟等詔	青華	至順中	青華	北京	順義	青華	篆額：制詔、六面経幢の改刻、下欠